せんだい普及センターだより

BLOSSOM

Vol.87
令和７年２月２８日発行

株式会社みちさき
みやぎ園芸振興大賞

■トピック
ー 令和６年度プロジェクト課題の振り返り ー
ー 後継者育成！新規就農者支援施策の紹介 ー

ー 令和６年度プロジェクト課題の振り返り ー

ほ場整備を契機とした営農体制の整備【令和６年度～令和７年度】

対象：株式会社 大輪（大和町）

株式会社大輪は、大和町吉田金取北地区の地域農業の担い手として、令和5年5月に設立されました。当該地区は大和町西部に位置する中山間地域で、将来的にほ場整備が行われ、地区内外の農地50ha程度が当該法人へ集積される見込みです。急激な農地集積に対応した営農計画や従業員の雇用体制などが課題となっており、重点的に支援を行っています。

営農計画に関しては、今年度の作柄や作業体系を振り返りながら、「農地の効率的な利用」や「高収益化」に向けて課題を整理し、次年度の営農計画作成を支援しました。また、経営分析を通じて雇用に係る経営課題について把握するとともに、就業規則整備などについて支援しました。

当該法人では、来年度、肥培管理の見直しや新技術の導入など、継続的な営農に向けて新たな取組を展開する計画です。大和町や関係機関と連携しながら、引き続き、担い手の経営力強化を支援していきます。

ねぎの次世代担い手育成による産地の強化【令和６年度～令和８年度】

対象：JA新みやぎあさひなねぎ部会　若手生産者５名（大和町、大郷町）

JA新みやぎあさひなねぎ部会は、高齢化により作付面積と生産量が減少傾向であり、産地の維持が困難になりつつあります。そこで、普及センターでは規模拡大を目指す若手生産者を重要な担い手として位置づけ、重点的に支援を行っています。

栽培技術に関しては、JAと連携した巡回指導や情報誌の発行により、適期管理作業や早期病害虫防除の実施を支援しました。また、振り返り会等の情報交換会や、コミュニケーションアプリの活用により、若手生産者間のネットワークづくりと栽培技術の相互研鑽を図りました。現地検討会では、各ほ場を巡回しながら生産者同士で助言し合う場面も見受けられ、コミュニティの醸成が着実に図られています。

こうした活動を通じて、新規就農者の反収が前年比倍増の1.8tを達成するなど、若手生産者の栽培技術の底上げができました。引き続き、JA等と連携し、産地の維持強化に向けて支援していきます。

次代を担う生産者の育成による梨産地活性化【令和５年度～令和７年度】

対象：JA仙台利府梨部会　部会員４名（利府町）

JA仙台利府梨部会は部会員の高齢化や梨の老木化が進み、生産量が減少し、産地の活性化が課題となっています。普及センターでは産地の再生に向け、部会員の後継者を重要な担い手として位置づけ、集中して支援を実施しております。

新たな技術を導入し、防鳥ワイヤーでの鳥害防除やジベレリンペースト処理による出荷時期の前進、天敵ダニ製剤活用による防除回数の削減などに取り組んできました。また、有機質肥料に関する理解を深めるため、研修会を開催しました。天候にも恵まれましたが、以前からの取組が功を奏し、今年は収量が高かったとの声が多く届きました。また、今年度から国の補助事業が活用できるようになり、町外からの新規就農者の参入や、若手生産者による園地拡大などの動きが出てきました。梨生産に関わる地域おこし協力隊が2人に増え、来年度からは新たな園地を任されることになりました。これからも利府町・JAと連携し、産地振興を図っていきます。

水稲乾田直播栽培技術の定着による大規模土地利用型経営体の基盤強化【令和６年度～令和７年度】

対象：(有)ITO、(株)高橋グリーン、(農)アグリ今泉、(農)若木の里、みどりあーと山崎(株)

黒川地域で乾田直播栽培(以下、乾直栽培)に取り組む5つの経営体を対象に、収量安定化のための技術向上支援やスマート農業活用支援などを実施するほか、乾直栽培の省力化の効果を明らかにすることで、対象法人のみならず、黒川地域における当技術の取組拡大を図っています。

今年度は、各作業を適期に行うことで、ササニシキで約500kg/10a収穫できるなど、移植栽培並みの収量を達成できたほ場もありました。また、播種作業が1ha当り1時間で終わるなど作業時間が短く、均平作業などが3月中にでき、作業が分散されるため、効率的に栽培できる技術であることが明確にできました。

1月には大和町で講習会を開催し、東北農業研究センターの研究員に乾直栽培の特徴とほ場準備や雑草管理など肝となるポイントについて講義していただきました。講習会には生産者だけで約80名が集まるなど、生産現場での乾直栽培への関心の高さが窺えました。

引き続き、関係機関と連携して乾直栽培の取組みを支援していきます。

トピック

新規就農者支援施策『就農準備資金』と研修機関の認定について

国の新規就農者支援施策である『就農準備資金』は、新規就農を目指す方が、県が認定する研修機関等で研修を受ける場合に交付されるものです。この資金は、就農予定時の年齢が50歳未満の方が対象となり、研修期間中に月12.5万円(年間最大150万円)を最長2年間交付されます。詳細な交付要件等は、農林水産省又は公益社団法人みやぎ農業振興公社のウェブサイトをご覧ください。

当普及センターでは、新規就農者の研修受け入れ体制の更なる強化に向けて、研修機関の認定登録を促進しています。(仙台普及センター管内の登録数：8件(令和7年1月末時点))

主な研修機関認定のメリット

1. 自身の経営手法や栽培技術を次世代へ継承できる。
2. 新規就農支援という形での地域貢献、社会貢献ができる。
3. 県認定研修機関リストに掲載されることにより、農場の知名度が向上する。

主な研修機関認定基準

1. 研修を着実に実施し、研修生が円滑に就農できるよう、関係機関や関係団体等と連携し適切な指導・助言を行うことができること。
2. 次世代を担う農業者となることについて強い意欲を有している就農希望者の就農意欲ニーズに応えることができる研修実施体制、研修カリキュラム等が整備されていること。
3. 研修生の健康管理、事故防止に十分に配慮できること。

なお、研修生に対して、労働の対価として金銭を支給しないこととなっています。

今後の地域農業を担う新規就農者の支援にご興味のある生産者様は、ぜひ当普及センター地域農業班へお問い合わせください。

←農林水産省ウェブサイト

(公社)みやぎ農業振興公社ウェブサイト→

せんだいの農を支える生産者を表彰

最新技術を取り入れた施設園芸法人、米を中心とした地域資源循環型農業に取り組む法人、また、JA新みやぎあさひな ねぎ部会を支える若手生産者が表彰されました。おめでとうございます！

第６回みやぎ園芸振興大賞
（株）みちさき

宮城県が表彰する「みやぎ園芸振興大賞」を、株式会社みちささきが受賞しました。同社は、平成24年に仙台市沿岸部で設立され、先端技術を用いた水耕栽培でトマトや葉物野菜を生産しています。「農業による復興の街づくりを実践し、10年後、20年後の農業の‘道先’案内人になること」を理念とし、地元農家の共同出資により設立されました。

外食チェーンや野菜カット工場に契約出荷することで安定経営を実現し、園芸振興に大きく貢献しています。この成果が評価され、今回の受賞に至りました。

第１０回オリザ賞 準大賞
（有）大郷グリーンファーマーズ

「コメ」を通じた食と農の担い手として、農業振興・地域活性化に優れた功績を挙げた個人・団体等を表彰する「第10回オリザ賞」（主催：宮城県農業協同組合中央会）において、有限会社大郷グリーンファーマーズが準大賞を受賞しました。

有機栽培へのこだわりを持って、地域のたい肥を活用した土づくりに取り組み、資源循環型農業を構築したことが高く評価されました。今後も、持続可能な農業の更なる展開が期待されます。

第２回JA新みやぎあさひなまつり農産物品評会 宮城県仙台地方振興事務所長賞
大郷町 髙橋佳郁氏

令和6年10月27日（日）、JA新みやぎあさひな統括事務所構内にて「第2回JA新みやぎあさひなまつり」（主催：新みやぎ農業協同組合）が開催されました。催事の中で、農産物品評会の表彰式が行われ、大郷町の髙橋佳郁さん（青年農業士）が出品したネギが宮城県仙台地方振興事務所長賞を受賞しました。

髙橋さんが出品したネギは、軟白部の長さや葉の状態が良好で高い評価を得ました。

写真提供：福島県病害虫防除所

ナガエツルノゲイトウにご注意を！

ナガエツルノゲイトウは南米原産の特定外来生物で、川や水路のほか、水田、畦畔、畑でも発生します。「地球上で最悪の侵略的植物」と称されるほど極めて強い繁殖力を持っており、数㎝の茎の断片からでも再生し、断片の水路への流入やコンバインや草刈機による断片の飛散でも分布を広げます。平成元年以降26都府県で発生しており、令和6年6月には福島県いわき市でも確認されました。いわき市では広域的な広がりは確認されていませんが、近年全国的に分布が拡大しています。対策が遅れると水稲の生育不良や用水の停滞など甚大な被害をもたらしますので、見かけた際は農業改良普及センターや管轄の農業協同組合にご連絡ください。

※令和7年1月現在、宮城県内では未確認です。

発行：宮城県仙台農業改良普及センター（仙台地方振興事務所農業振興部）
〒981-8505　仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
ＴＥＬ 022-275-8320（地域農業班）
022-275-8410（先進技術第一班）
022-275-8374（先進技術第二班）
ＦＡＸ　022-275-0296（共通）
E-mail　sdnokai@pref.miyagi.lg.jp
ＵＲＬ　https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/

この印刷物は1,000部発行し、1部当たりの経費は41円です。
再生紙を使用しています